

高知学園短期大学図書館における ILL の傾向

諏訪有香，梶本市子，中平憲一
高知学園短期大学図書館

○ 概要

高知学園短期大学図書館（以下、当館）における ILL 依頼・受付統計を分析し、当館の ILL 業務における課題を考察する。さらに学術情報の電子化が進む近年における図書館での文献複写提供業務において図書館が期待される役割についても考察する。

○ 分析対象

- ・ 当館における ILL 依頼・受付データ（2013～2017 年度分。業務システムより）
- ・ NACSIS-ILL 統計情報，入手先< <https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/ill/>>（参照 2018-06-01）

○ 分析結果

- ・ 文献複写依頼は 2013 年をピークに減少しているが，複写受付は増加傾向にある。
- ・ 依頼件数の多いタイトルを集計したところ，特定のタイトルが上位を占めるのではなく，年度によって上位が入れ替わる結果となった。また，当館では **Medical on line** 等による医学文献の電子媒体での提供サービスや電子ジャーナルの導入が遅れており，それらのサービスで提供可能なタイトルを外部へ依頼していることが確認された。
- ・ 依頼の内容を分析する。月別の依頼状況をみると，例年 4～5 月に最大の依頼件数を迎えている。これは，学生の修了研究の開始時期に符号している。
- ・ 文献複写を申し込んだ利用者が，オープンアクセス等で電子的に入手が可能であり外部への依頼が不要（キャンセル）だった事例を分析した。2013 年にはキャンセル率が 23% だったが，2016 年には 5% にまで減少しており，当館において利用者間にオープンアクセスや機関リポジトリが浸透してきた影響が見受けられた。
- ・ 年度別に複写受付件数の多いタイトルを集計したところ，看護系雑誌が上位を占めた。中でも「**Journal of Clinical Nursing**」は **CiNiiBooks** で確認できる範囲では冊子体を現在も所蔵している大学図書館は当館も含めて 2 館のみである。（2018 年 6 月現在）

○ 考察

当館の事例において，複写依頼減少の背景に利用者が容易に入手できる文献が増加したことが見える。一方で看護文献に関する複写受付は増加傾向にあることが確認された。

当館は電子ジャーナルなどの導入がままならず，レファレンスツールの面でも不利な状況がある。今後，利用者の利用実態を更に調査し，どういったサービスを必要としているのかを把握し，教員や利用者との連携することにより，さらなる研究支援サービスの充実を図ることが課題である。

今後も図書館を活用して文献や情報を入手しようという利用者からは，所蔵確認が難しい文献や，看護文献のように需要があるが電子化されていない文献が求められることが予想される。情報を取り扱う専門機関として，図書館には，文献探索や文献入手のための深い知識や技量が必要であり，そのための努力が求められていると考える。